

# BLOWERS vol. 22 LINE UP

- P1. BLOWERS 改訂告知  
P2. FA隔月化の極道性を和らげるためのページ  
P3. 真鶴学園風雲録  
P20. 田中真人の墮落日誌  
P22. FREE TALK SPACE 三等雑居室  
P24. 第3次バトルテック大会レポート  
P25. 行け行け外回り -北九州阿呆列車篇-  
P30. 新連載! FTTRPGRN 六色のダガー  
P34. PEACE PRESSER MAYA

## 今月の告知

※「FOX AWAY」には、別売りルールブック(¥300)が必要です。

※「真鶴学園風雲録」には、別売りルールブック(¥100)が必要です。

## あいさつ

やっと出ましたBLOW22号。今はお陽様がまぶしい時刻。気合い入れて編集した甲斐があったというものです。従来号とはちょっと毛色の違った物になっているでしょう?こんな編集の仕方は8号以来ですが、製本/編集方式に意見のある方!どんどん注文を編集部宛に送りつけてやって下さい!

僕の考えているBLOWの編集方針だと今後、パソコン、対戦型格闘ゲーム、超兄貴に関する文章が増えることとなるでしょうが、その辺は編集者が変わったということで勘弁して下さい。今後もいくつか新しいコーナーを設けるつもりですが、読者の方々の中に「こんな物をやってもらいたい」という人がいらっしゃいましたら、是非ご意見をお聞かせ下さい。

では、新生BLOW22号をお楽しみ下さい!

# BLOWERS 改訂告知

BLOWERSは22号より編集者が菊地研一郎氏から私、田中真人に変わりました。それに伴いましてBLOWの環境面が一部従来から変更された部分が出て参りましたので読者並びにスタッフの皆さんにこの場で告知いたします。

## A. 料金体制

郵送料の値上がりと人件費雑費等の上昇その他の事情により、23号からはBLOWの料金を値上げさせていただきます。読者の皆様には申し訳ありませんがご了承下さい。

- ①値段 現状は本書¥300(為替) + 郵送料(切手) ¥270となっておりますが、次号より30円値上げし、計¥600とさせていただきます。
- ②支払方法 次号からの読者の皆さんのBLOW申し込み方法は以下の2種選択となります。
  - 1) 無記名小為替600円分での申し込み(いちいち小為替と切手を分けて買う必要がなくなります)
  - 2) 50円切手12枚での申し込み(開局時間中に郵便局をご利用できないか他はこちらをご利用下さい。切手の換金には手数料を要しますので出来るだけ小為替の利用をお願いします)
- ③学割制度 前号で菊地氏が改訂しましたが、23号からは学割そのものを廃止いたします。申し訳ありませんがご了承願います。

## B. 発行周期

従来通り月刊を出来る限り継続する予定です。ただし、原稿落ち等の理由により予告なしに発行が遅れたりする場合がありますが、その辺は同人誌ということでご勘弁願います。なお、投稿、PBMの参加申し込みが〆切日を過ぎますと発行遅滞の原因となります。善処は出来る限りいたしますが場合によっては切ることもあります。ご注意下さい。

## C. 申し込み

申し込みの際は封筒に¥600分の為替か50円切手を同封し、「BLOW〇〇号が欲しい」と書いた紙を同封し、田中宛まで郵送して下さい。(封筒には差出人氏名と住所を必ず記入して下さい) PBMの参加キャラクターシート等を同封する場合は、重量と料金にご注意下さい。PBM他別冊が欲しい場合は「～が欲しい」と書いた紙と本体(¥600) + 欲しい別冊の各料金の合計額分の為替か50円切手を郵送して下さい。

## D. 投稿要領

- ①各PBM 別冊ルールブックに基づいたキャラクターシートを田中宛に郵送して下さい。なおPBMは従来と違って編集者とゲーム処理者が異なりますので相互間連絡に時間がかかるため、〆切を過ぎてから参加申し込みをされますと切られる可能性が飛躍的に増えますのでご注意下さい。
- ②三等雑居室 従来のように読者/ライターのFREE TALK SPACEとして解放いたします。従来のようなストIIやセーラームーンネタは禁止というような特定事項の掲載制限は特にしません。載せたい場合は雑居室行きと書いて下さい。載せたくない個人的な私信は掲載不可の記入がない限り、編集者の気まぐれで掲載される場合があります。イラスト投稿は大きさ制限はB5以内、未ペン入れ不可とさせていただきます。その他追加連絡事項は随時掲載いたします。 以上

# F A 隔月化の極道性を 和らげる為のページ

ここは表題の目的でA - Strikeの登場機を肴に、ゲームの設定などをより詳しく解説するものです。

## ～第一回～ 三菱A6Mx 零式艦上戦闘機

登場の背景については史実通り。帝国海軍が採用した数ヶ月後に、イザベリア海軍でも採用を決めて、ライセンス生産を開始している。

イザベリアは昔から工業技術力は高水準のものを持っていて、その気になれば主力戦闘機の開発もお手のものだったのだが、「高価な消耗品」にすぎない近代兵器については国が中心になって貴重な技術力を浪費することを避け、ライセンスで導入したものを手直しする事を好む傾向があった。ライセンス品の導入は、技術力の節約を生むと同時に、軍事機密の一つである兵器性能を隠匿できないという欠点を備えるが、日本とは数世紀に及ぶ友好関係があり、相互に信頼しあっていたのである。18世紀以後はヨーロッパ大陸との交流も深く、その関係でナチ・ドイツからの技術導入も比較的スムーズであった。現在の公用語がドイツ語なのも、ヨーロッパとの交流が始まったころの国王（後プロシア皇帝から公爵位を受けた）がドイツ語を公用語とする旨、命令を出したからである。元々は日本と同じアルタイ語族に属していたとされるが、現在は古文書にその片鱗を留めるのみである。イザベリアは太古より、そのようにして自らの姿を変えていくことで、侵略を予防してきたのである。

さて零式戦は、本ゲーム上では一部を除いて最高と言っても良いスペックを持っている。機敏性はF-16などのFBW機の存在しない現状では最高だし、航続力も増槽を着けた状態なら3000km近い。「なお生産が続いている」ので、信頼性もピカ一である。なぜ生産が続いているかというと、対ゲリラ戦のためである。即ち零式戦は巡航高度3000m前後を想定していて、低空での作戦に適しているところへ持ってきて、戦闘機ゆえの全周視界の優秀さが長時間の低空哨戒に最適、という事になっているのだ。なお本機は300m前後の滑走路があれば離着陸できるので、取り回しも容易である。今風に言うSTOL機だが、当時はこれが普通だった。現用機の要求滑走路が長すぎるのである。

装甲の薄さについてだが、現用機のほとんどには装甲の概念が無いので、（火力の増大が装甲の意味を喪失させた）、問題にならない。

改良された無線機など、居住性もはるかに改善されているので、「最高のCOIN機」と呼んでよからう。

# 真鶴学園風雲録



11月初め、女子寮の野木坂若葉の部屋に、客があった。同じクラスの井村真知子と有明みどりである。井村は初対面だが、有明と野木坂では互いに面識があった。

用の方は、「先月の戦訓」についてである。男女両軍を大混乱に陥れたのだから、さぞかし豊富なデータがあるだろうと思ったのかも知れないが、あれは野木坂にとってはあくまでも「訓練中の事故」でしかなかった。

井村の得ることは絶無だった。

\* \* \*

その野木坂の方は「逆探機」の改良のことがいつまでもひっかかっていた。「自分に理解できないものには手を付けない」を科学者としての信条にしている彼女のことでもある。一度などは有明にも相談してみたが、「意外と先輩自身が使ってるんじゃない？」と冗談まで出る始末で、どうも前向きにはなれなかった。

ただ、すぐに有明が問題の周波数に対応したラジオを作った。2石の単純なものだったが、感度は悪くなかった。問題は、そのイヤホンから栗田はるなの声がしたことだ。

「坂井の熱意は買うけれど……」

彼女がいれば飛び上がって喜んだかも知れないが、残念なことにそうではなかったし、伝えることもできない。有明が手持ちを寄せ集めて作っただけあってラジオはその周波数しか取れなかったが、よく調べてみると「艦隊派」の中心人物と他に何人分か、それだけの数は確保されていることが判明した。

これで状況証拠は固まった。如月は信用できない。

\* \* \*

菅原は髪をまとめた。生活指導対策で、その格好から同級生に「素浪人」とはやされることになったが、勿論そんな程度で鹿間（生活指導主任）の目を胡麻化せる筈は無く、「ガンジー行き」を命じられた。「ガンジー」は市街で床屋を営むOBのあだ名である。今でも真鶴の生となら500円でやってくれるのだが、ヒゲ剃りと洗髪が無いのと、今にも潰れそうな店構えが災いして、スポカラと生活指導のご用達になっている。

彼が行った時もやはり客はゼロだった。それでも二つしか無い椅子はきれいに手入れされている。菅原は何んとなく、この店に好意を抱いた。

\* \* \*

「そうか、秋田から来てるのか」

見かけとは裏腹に軽い手裁きで彼の頭を刈りながら、ガンジーはうなずいた。

「お前さんぐらいの歳の時は、ちょうど海軍にいてなあ……」

勿論本物の帝国海軍の話である。彼は特攻隊の生き残りと言われ、伝説は男子部MFの一部で今も語り継がれているが、それが客離れに一層の拍車をかけていることに、ガンジー自身、気がついていない。

「お前さん、あそこの裏山の中に秘密ドックがあつてな、戦艦が隠してあるなんて言ったら、どう思う？」

「ええ!？」

思わず振り向く菅原。

「ああ、動いちゃだめだ。こりゃ丸坊主しか無いな」

ガンジーの話というのは、鹿屋で出

撃待ちだった時に聞いた「噂」で、伊豆の方に秘密ドックを作っておいて、「大和」を中に隠しておき、本土決戦の時に沿岸砲台として使用する計画のことだった。「噂」だから尾ヒレは付物だが、それにしても「雪風」から「大和」では度を外している。

だが、500円払って丸刈りになっただけの価値はあった。ガンジー自身、裏山の中腹に、それらしい入り口を見つけたのだそうだ。さんざ迷った挙句何も見つからなかったのだが、内部には海軍軍人には分かる「臭い」があちこちに残っていたらしい。

すぐ、初雁を通じて榛名に確認する事にした。

\* \* \*

春日千明は如月との一件があって以来、「裏山」への関心を日増しに深くしていた。

「なーにが『ヤバい事は絡んでないと思う』だ。絶対、何かあるね」

関心はやがて疑念になり、疑念はやがて確信へと変わっていった。

月初め、秋晴れのある日、春日はかねてからの計画を執行した。風紀委員の仕事と称して初雁艦隊の練習を休み、裏山へと足を踏み入れたのである。先月の失敗で得るものは多く、「死角」を数点発見している。これを縫うようにして、彼女は今回は裏山の奥深くまで侵入することに成功した。ミカンの木は相模灘までは隠さず、日が暮れないかぎり道に迷う心配はない。

そして、遂に発見した。

一見すれば何ということはない石塚である。片田舎の小さな墓場にあるような、コンパクトな墓石のようにも見える。表面には「雪風碑」と草書で彫

られているのが辛うじて判読できた。周りの草群を更に探してみると、どう考えてもこんな所にあるはずのないマンホールのふたが見つかった。中央に錨のマークがある。やっとの思いで開けてみれば、中には階段があった。

日はまだ高い。日没までには時間がある。初雁のお陰でその程度は読めるようになっていた。

あたりに人がいないのを確認して、彼女は階段を駆け降りた。階段はほぼ一直線で、10分も走らずに見慣れた光景を目にすることになる。

雪風だった。

そういう事か。

春日はうすうす気がついた。如月が雪風を「ボロ船」呼ばわりした事から察して、彼女は雪風の存在自体は確認している。肉眼で見たのだろう。加えて彼女は中学から榛名と同級で、「耳」として艦隊から全幅の信頼を置かれている。あとは彼女の情報収集能力のことだ、ここへ至る道はすべて調査したに違いない。

彼女は、風紀に身売りしたのだ。

冷静に考えてみれば、榛名に限らず艦隊の人間が優勢なのはわずかに学校の中だけ、宇垣は県西に勢力範囲を持つが、「お山の大将」に変わりはない。ところが風紀委員はどうか。勅使河原を経て、全国規模の強力な暴力団がある。正に「通用する」力があるわけだ。校内で過ごす分には榛名に付く方が有利かも知れない。しかし、如月はもう卒業する。

例の「M資金」の鍵は「雪風」の中にある。しかし如月は未だその所在を確認するには至っていない。榛名たちが未だ隠していれば話は別だが、とりあえず雪風そのものがM資金なのだから

らこれは仕方がない。一方風紀委員は、「雪風」にあることは知っていても、そこへ行く経路を知らない。実際校内の敷地からでは、道が複雑で探り当てるのは困難だ。

両者の情報が合致すれば、障害はない訳である。如月は一番単純な道を教える。風紀委員はM資金の情報を与える。必要な知識を如月は卒業までに集め、これを勅使河原のところへ運ぶ。

しかしこの老朽艦に、そうまでして探るほどの情報があるのだろうか？

\* \* \*

菅原絵馬が初雁の紹介で榛名に会ったのは、それから数日後のことだった。寮内は互いに異性禁制なので「白幡」艦上へ榛名がやって来る形が取られた。榛名は一線を引いた後入港管制班へ移り、その実、交通研の自動車班に入り浸っていた。

「雪風」の情報がこうも早く漏洩したことに榛名ははじめ苦々しい表情を崩さなかったが、菅原と話を交わすにつれて徐々に打ち解けるようになってきた。

菅原は事前に、雪風について予習を行っていたのである。この手のことならそこらへんの戦史を引っ張ってくれば、ある程度は載っているものだ。しかし今回の菅原のは力が入っていて、艦内図まで調べる念の入れようだった。

「予習している」＝「熱意アリ」

榛名はそう考えたらしかった。

「まあ、あれは元々男の艦だし」

菅原の「見学」を、彼女は快諾した。何故か同時に春日も招かれた。

\* \* \*

小田原中央病院は、宇垣のシンプアのメッカと化していた。「協定」のお陰で一家による見舞規制に混乱が出なかったのは幸いだったが、それでも一部末端組織ではリポートを要求した事が明るみに出て、関係者が停学処分になる等の事件は避けられなくなっていた。

誰もが、教職員でさえ、ただ一人の問題児を待っていた。

当の宇垣と言え病床に根を生やしていた。彼女に言わせれば「留年も決まったことだし、公然とサボれるのはいい」らしいのだが……

#### ・見舞いの事例1：榊裕／早坂理絵

彼らが宇垣を見舞ったのは月初頭の事である。もう随分良くなって、そのまま退院してもいいくらいに他所目には見えた。自力で起き上がるのも苦ではなさそうだった。ごく普通の世間話の隙を見て、榊は5円玉を取りだした。

「早く直るお呪いやとよ」

つい緊張して宮崎弁が出るが、宇垣は呆気にとられていて気がつかない。榊は縫い糸をつまんで、彼女の前で振子にした。

「あなたは段々眠くなる～……段々眠くなってえ～」

「ぐう」

「宇垣はん、まだ早いで！」

早坂が突っ込むが、どうやらマジで催眠術にかかったらしい。エビのように上体だけうつぶせになってしまった宇垣をのぞき込んで、榊は困ったように呟いた。

「まいったな、これで事故のこと聞こうと……」

次の刹那に、宇垣はガバと撥ね起きた。榊はバックアタックの顔面直撃を

思い切り喰う形になる。宇垣は息急ぎ切って、早坂に尋ねた。

「今、何時だ！」次いで、「ここはどこだ！」

事情が良く飲み込めない二人は、呆然となるよりない。すぐに自分で答えを得た宇垣は、首をかしげた。

「おかしいな、今確かに寮にいて、ブン屋と話してたような……」

早坂の目がキラリと光ったのは、榊も、当の宇垣でさえ気がつかなかった。

### ・見舞いの事例2：野木坂若葉

野木坂が宇垣のもとを訪れたのは、例の弾丸の種類が分かった次の日だった。当然話しの方向もそっちの方へ行く。実は早坂はこの日も放送委員の特権を濫用して来ているのだが、煩雑になるので標記はしない。

「寮の壁にな、APDSつつう弾が減り込んでたんだと。何でもヤに小さいらしくて、それで今まで見つけれなかったらしい。ムチャクチャ初速が高くて、その関係で風穴は22口径くらいに拮がるらしいんだわ。カートリッジはライフル用の使ったらしいぜ」

他人事のように宇垣はペラペラと解説したが、それを判っててうなずく二人も二人である。

「それなら、コンテNDERなんて珍しい銃使った訳も判りますね」

「確かに」宇垣はうなずいた。「競技用だから、普通の奴より輸入も楽しいしな」

「それで、ヨナイの事ですけど」

野木坂は自分の用件を切り出した。だが、宇垣は手を挙げてそれを制した。「そりゃ勘弁してくれ。お巡りからも質問責めに遭ってて、うんざりしてるんだ。それに俺は、そんな事は言っていないはずだ。ヨナイなんて奴は知らん、

マジで」

そこでふと、宇垣は口許に手をやった。不確かな口調で言う。

「お前ら、ブン屋……如月から、何か言付かってないか？」

二人が首を振ると、宇垣は深く首をかしげた。

「変だ……奴から、何か用があったはずなんだが……」

この時も早坂の目の色は変わったが、やはり誰も気付かなかった。

一方で、こうも毎日入れ替わり立ち替わりの見舞い客があると、他の入院患者の負担になってくるのは否めない。病院側でも彼女をどうするべきかが徐々に問題になってきていた。

\* \* \*

さて、一旦舞台を空中へ転じる。

坂井法子はS-2隊がなお続いていたが、ある時不意にYS-11が合流してきた。同行しているF-15と、その尾翼の山桜のマークから、はるな隊だとすぐ分かる。どうやら榛名の伝言を永野に伝えようとしたらしかった。

交信の最中から坂井の心中には何か込み上げて来るようなものがあった。やり切れないような、葛藤。勢いに任せて彼女はスロットルを奥まで押し込み、はるな機と思われるYS-11へと突っ込みをかけた。……が、寸前にF-15がS-2の前を横切った。

こっちがはるなか。

早合点した彼女は、迷うこと無くそちらを追い寄せた。もとよりジェット機とプロペラ機である、勝負になるはずが無い。だが坂井は夢中だったし、同乗者はハナから諦めて操縦を放棄していた。脱出しないだけマシだろう。



実は彼女の気を引いたのは扶桑和子で、最初の「読み」通りはるなは長門洋子と共にYS-11にいたのだが、坂井はまったく気付かなかった。

「こっちょ！」

不意に無線からはるなの声がしたかと思うと、坂井は床板を外されたような縦Gを感じ、次いで射出された。

次に見たものは、今まで乗っていたS-2が、YS-11に覆い被られて、もつれあって墜落していく様だった。

夕方、坂井はF-16の班へ移動になった。何故か朝比奈美雪も回された。

\* \* \*

その日の晩、彼女は山城のもとを訪れた。先日の礼を言うためだ。

「……聞いたよ、夕方の話。生きていればこそ、いい思いができるでしょ？」

しばらくの沈黙。

「やっぱり、先輩、勝者じゃないですか」山城は少しドキリとなった様だったが、坂井は構わず続けた。「私って単純だから、勝負って勝つか負けるかしか無いんです。勝てないってことは、即ち敗北なんです。勝てないまでも負けない戦なんて……そんな器用なマネ、私にはできません。勝つことができないなら……わたしは一生、敗者なんです……」

「じゃ、決まりだ。一生敗者だね」

山城はいきなり決め付けた。

「できないって思った瞬間、あなたは自分自身に対して負けを認める。プロもアマも関係ない。負ける戦は仕掛けない、この位は麻美だってやってる。この手の事なら、彼女にできてあなたにできないはずは無のに。で、一生敗者になる位なら、どうする？死んだ方

がまし？」

坂井はニコリと笑みを浮かべた。

「大丈夫。今は死にません」

そして、部屋を出る時、付け加えた。

「武士道とは、死ぬ事と見つけたり……なんてね」

\* \* \*

一方……海。例によって菅原は、海上でデートとしげこんだが、その日はそう上手く行かなかった。榛名がいたのだ。菅原の話を変え聞いて、榛名の方で会いに来たのである。

丸坊主になった彼を一目見て、初雁は一瞬吹いたが、すぐまたいつも通りの平静な彼女に戻った。

菅原の話を一通り聞いた榛名は、特に驚いた風も無く、普通に答えた。

「……ま、そんな事も有るかもね。裏山の通路は、資格がないとそうスナリは入れないから心配無いと思うけど。……そうか、風紀委員はガンジーから裏山の事聞いて、それで立入禁止にしたのかな……」

別れ際に榛名は妙な一言を残した。

「近いうち、また会うと思うよ」

\* \* \*

「宇垣一家の解散」で落ちこんでいた初雁は、外面を明るく保つように無理していた分だけ、自室での落ち込みが激しかった。たまらないのは同室の坂井である。自分も一時期ひどく落ち込んでいた経緯もあってあまり強くは言えないのが難点だったが、夕食後は抜け殻のようにベッドで大の字になってしまふのを毎晩見せられては、黙っている訳にも行かなかった。

「ね、何があったの？」

無言で寝返りを打つ初雁。

「臭いで判るわよ。突然タバコなんか吸いだして。一体どうしたのよ？」

むくりと起き上がったかと思うが早いか、彼女は布団をひっかぶり、潜り込んでしまった。坂井は仕方なく、ベッドの縁に腰を下ろした。

「前に私に言ったよね。甘ったれんじゃないって。あなたが甘えてるとは思わないし、あなたがそんな弱い人だと思いたくない。だけど、今のあなたはまるで、この間までの私みたい……

「確かに私ってば飛ぶこと以外何もできないけど……放つとけないよ。大事な友達が苦しんで……」

初雁がいきなり起き上がり、指で坂井を指してまくし立てた。

「空軍野郎に何がわかるって？ハッ！友達ね。お上品ですこと。ピアノもお弾きになるの？放つといてよ！」

再び彼女は布団に包まり、プライドを傷つけられた坂井が一気にプチ切れかけた途端、意外な声が出た。

「おう、今のは何だ」

宇垣麻美だった。ガバとはね起きた初雁は声の主を確認するなり口から泡を吹いて失神したし、坂井も驚愕の余り腰を抜かしかけた。

「そう驚くな。足はちゃんと有る」

声を聞いた者、つまり近い部屋の者から野次馬が集まり始めた。5分と経たずに初雁の部屋周辺は押すな押すなの大混雑になり、ついには万歳コールが渦を巻き始めた。

\* \* \*

春日は裏山の通路を見つけて以来、如月へ伝える「情報」をかなり端折るようになっていた。やはり「宇垣姐」への忠義は消せなかったのだ。宇垣自身が帰ってからは尚更である。如月もその辺は計算に入れていたようで、あまり突っ込んだことは言ってこなかった。不気味ではあったが、それが安心材料にもなっていた。

それが宇垣の「生還」で袂を別つ決心が変わったのは、見方によっては自然な成り行きだったかもしれない。何にしても、宇垣が守ってくれるという安心感が先にあったのも事実だ。

だが、「姐さん」との誓いはまだ果たしていない。いくら相手方がその事を忘れていたとは言え、春日にしてみればそのまますっぱかす訳にも行かない。少なくとも「ヨナイ」が誰であるかは突き止めたかった。

決定打が欲しかった。

今までとは違って、今回は冴えもフットワークも良かった。良すぎたとも言えよう。如月が部屋を留守にしたスキに、「ガサ入れ」を実施したのである。手順なら委員会で覚えているし、見付かった時の言い訳ならいくらでも用意できた。

が、彼女はいきなりゴールデンハンマーを獲得してしまった。

コンテナーである。

いかにも無造作に、押し入れの中に吊ってあるそれは、実際に手に取ってみると、実銃そのものである事が判明した。少なくともDMのそれとは持った感じが異なる。まさか……

身の危険を覚えた彼女は、現場を旧に復して、直ちに部屋を後にした。

\* \*

その日も「彼」は来ていた。180センチを超える身長 of 正熊曜平はただでさえ目立つ存在だったから、女子部の射撃場へちよくちよく顔を出していれば、すぐに覚えられるのも無理は無い。大概の場合は「噂」になるのを恐れて皆そのそばへは行かず、遠巻きに眺めて「鑑賞」するに留まっていたが、その日は混んでいた関係もあって、両側とも埋まっていた。いかげん冬でもあり、MAの人間が集まったからでもあるが、その一角だけは妙に緊迫した、あるいは「浮いた」空気を演出していた。手短かに言えば、両の隣を含めた3人が3人とも、使っている銃が奇特だったのである。

正熊曜平がデトニクス、45スナブ。  
野木坂若葉がリゾルバーM380。  
南部沙紀がルガーP08。

細かな説明は避けるが、とにかく「どマイナーな拳銃」な事だけ判っていれば良い。その奇特的な3人組はここ何日かの間に「類友」で顔見知りになり、ごく普通に会話するようになっていた。ただ、その会話の内容が問題ではあった。

「如月は味方じゃない」これは野木坂。「でも提督先輩は信頼してる。忍術研でも、使える情報はたくさんもらってる」これは正熊だ。

「味方じゃないのに、得なこと教えるかなあ？」南部である。

「今はまだ味方のふりをしてるかもしれない。でも、安心したスキに」

「後からグサリ、か」正熊が後を受ける。「厄介だな」

MAの生徒たちがキャーキャー言いながら練習している中でボソボソと喋っているから、盗み聞きされる心配はほぼ無い。

「この件、他言無用」野木坂は真顔で、しかし的の方だけを見て、呟いた。

「黒幕から」

そう言って、真中にいる正熊の正面に、そっと500円玉を3枚重ねて出した。それをそれぞれで1枚ずつ取る。

趣味である。

\* \*

「しんや」の改装は月半ばを過ぎて、ようやく完成した。担当者の有明が聴機問題の方に興味を引かれてしまって、作業が停滞したのも一つだが、「島風」事件で得た経験をもとに若干計画に変更を施したのも遠因にあった。改装については艦隊司令の初雁も物心両面からバックアップを惜しまなかった。今回の改装資金の2割程度は初雁からの援助である。

そして、彼女の勧めで、単艦で試験航海に出てみると。

電波情報収集装置をオンにした途端、装置が煙を吹いてオシャカになってしまった。井村も有明もまっ青になる。普通に使っている分には、煙を吹くことなど考えられないはずだったのに。

「どっかで強烈な電波を出してるに違い無い」

有明は当たりを付けたが、それが何かまでは思いも寄らなかった。装置がイカれてしまっただけは、発信源を特定することもかなわない。

\* \*

同じように、B-36を電子戦機に改造した早坂理絵も、システムがバアになってまっ青になっていた。これも有明が手がけたものだった。盗聴アイテムが欲しかった早坂と、多元的な情報システムを構築したかった有明の利害が一致して、「しんや」とリンクしたシステムを形成したのだが、それが一時にパンクしてしまったのである。

すぐに反省会が始まったが、何が判るでもなく、深い謎を彼ら自身が得ることになった。

\* \* \*

菅原が榛名の呼出しを受けたのは、月末のことだった。この頃には宇垣一家の「混乱」も宇垣の生還によって一応の沈静を取り戻し、分裂したままではあったが本来の機能は果たすようになっていた。「艦隊の情報網」もその一つである。

時間は夜。女子部の体育館裏だった。背は小さいが剣道の心得がある彼は、「万が一」に備えて竹刀を携えて少し早目に行ったが、現地では既に初雁が月を眺めて紫煙を上げていた。

「早かったね」

初雁の方が先に声をかけてきた。

「……雪風が見られるよ」

「やっぱり」菅原は期待が叶った喜びを、そのまま表した。「本当に、有ったんだ」

「まあ、ね」

そこへ榛名たちがやって来た。南雲、山城、宇垣、永野、初雁。栗田艦隊のそうそうたるメンバーだが、菅原は特に負い目は感じなかった。雪風への興奮が勝っていたのである。やがて春日に坂井、それに見たことも無いような一多分中学生だろう一外国人も来た。

全員榛名に呼ばれたのだろうか、と菅原が不審に思ったのも無理は無い。初雁の素振りから言って、「雪風」の話がそうも広まっているとは考えられなかったからだ。

マンホールに入ってから、榛名は菅原に彼女を紹介した。

「アーティミス・バンガード。彼女も交通研なのよ。And Arty, he's Ema Sugawara, ...」

「ハーフ」が実は「フル」の外国人であることを知って、菅原は二度びっくりした。榛名の言に依ればアーティは在日カナダ外交官の娘だそうで、都心のありきたりの学校よりも、カナダと交流のある真鶴に入れられたという事らしい。金髪のちょっとカールしたロングで、少し小太りの、いかにも活発そうな娘だ。

一連の紹介が済むと、榛名は驚くべき事実を告げた。

「もう、時期だと思う」

はじめは軽いジャブだった。

「雪風を継いで欲しい」

いきなりボディブローが来た。

「私たちがここを卒業したら、もうそばで雪風を守る人はいない……それを、あなたたちにやって欲しい。できるって事は、今までの行動が証明してる。永野がいるし、意図したものではないけど、麻美もいるから、後見人もちゃんという。お願い」

そう言われると、なかなか反論し辛いものがある。現に初雁や春日は抗弁したような顔をしていた。アーティは平然としている。予め話を聞いていたのか、それとも驚愕も通り越したか。

ちょっと待った、僕はまだ何も……

菅原も言い掛けたが、榛名に先を越された。

「何かのゲームのお約束みたいだけど、キーアイテムがあるの。本当に必要なことは、そのアイテムが教えてくれるはず。それに……それがないと、雪風のドックに入ることはできない」

如月のこと、そして裏山の抜け道の事を告白してしまいたい衝動に春日は駆られたが、結局口に出すことはできなかった。

「数珠の知恵を」 榛名から初雁が。  
「木刀の勇気を」 宇垣から菅原が。  
「警策の理性を」 南雲から春日が。  
「手鏡の希望を」 永野からアーティが。  
それぞれ、引き継いだ。

「キーアイテムは、あと一個有ることになってる」

引継ぎが済むと、南雲が言った。  
「山城でも、如月でもないよ。本当に、私たちも知らない。6年いる間に、結局私たち4人には見つけれなかった」  
榛名が後を引き取った。

「……5つが一つになった時、雪風は甦る。敗戦時に帝国海軍は、その威信を後世に伝えるために雪風を封印して、鍵となるものを、当時海軍で呪術の極秘研究に従事していた研究員達に託した。その資料はその後M資金の資料として紛れ込んでアメリカに渡ったの。アメリカはどうかして封印術を手に入れようとしたわ。秘密実験場に使えるばこれ以上の隠蔽工作は無いから。でもその一方で研究員たちは秘密を守って、鍵を代々引き継いだ。当時の真鶴学園校長が一人の研究員の弟で、雪風を敷地内に預かったのも正にその為なんだけど」

「それなのに、私たちが引き継いでいいんですか？」

洞窟を歩きながらの、榛名の長い話の切れ間に、初雁が尋ねた。

「すべては数珠のお告げよ」

南雲が答える。

「好むと好まざるに関わらず、それぞれを次ぐ者は数珠によって選ばれる。今回は貴方たちが選ばれた……それだけの事よ。次の交代が何年先になるか……明日かも知れないし、10年先かも知れないし、死ぬまでそうかも知れない。言い替えれば、運命の巡り合せ」  
冗談じゃないぞ、こいつら狂ってる……菅原は本気でそう思い始めていた。ちらと春日の方を見てみると、どうも菅原と同じ考えのように見えた。実は彼女は、如月との板ばさみになって不安におののいていたのだが。

「さあ、あなたたちと、あと一人のフネよ」

その日も、雪風は巖としてドックに居座っていた。どうということは無い、ただの錆びついた老朽艦の様にしか見えない。しかしそれを守るものにこそ、「価値」は有ったのだ。少なくとも菅原にはそう思われた。

「雪風が必要とされるとき……5つの鍵が集えば、後は自然に復活するはず」

榛名は、そう言った。それがあまりにもあっけらかんとしていたので、菅原は却って恐怖を覚えた。

榛名が「封印術」よりも「雪風」を主語にしたのは、あるいは「らしい」のかも知れないが、気にかかった。

\* \* \*

「そう、そんな事まであったの」

春日の報告を一彼女自身は最後の報告のつもりだった一受けた如月は、冷

たい薄笑いを浮かべた。日が経つにつれて冷笑の度合いが強まる印象を受けるのは気のせいではないだろう。

「……あなたが腰巾着の後継ぎとは、皮肉だね」

あからさまな嫌味だったが、春日は耐えた。これで最後だ。

「……春日、あの海軍バカが何を言ったか知らないけれど……雪風は、いずれ必ず私のものになるのよ。忘れない事ね」

突拍子も無い台詞に、春日は啞然となった。

「あの艦の封印術は、私のひいお爺さんが発見したものなんだから……」

咄嗟に、彼女は身の危険を覚えた。押し入れのコンテナの残像が脳裏を過る。そして宇垣が血塗れになって校庭に転がっていた様が……

「まさか！」春日は反射的に口をついてでた言葉が押さえられなくなった。

「先輩がヨナイ……！」

如月はそれに、人差し指を立てることで制した。

「学校で一番信頼されている情報屋と、叩けばいくらでもホコリが出る外進生、警察はどちらを信じるかしら？」

……殺される。本気で春日は思った。

\* \*

菅原はそれから足繁く雪風を見に出た。女子部へ出向かなければならないのは面倒だったが、彼には彼なりの目的が有る。部活が終わって消灯点呼までのわずかな時間の合間に、女子部へ行つて雪風の艦内を捜索するのはなまかな事ではなかったが、少しずつ、彼はブロックをこなしていった。「あの日」の後すぐに初雁艦隊で「白幡」

の主砲係になったアーティは彼の事を「リルガミンのサムライ」と評してからかったが、正にその通りで、モンスターこそ出ないものの狭い艦内は「宝物」の山だった。もちろん、歴史的な意味においてである。

だが肝心のM資金に関係するような代物は、一向に出てくる気配が無かった。あるいは初めから存在しないのかも知れない。春日も何かを探しているようで、時間はずれる事の方が多かったが、雪風へはよく足を運んでいるようだった。

\* \*

月末の晩。朝比奈美雪が宿題を終えかけた頃、長く尾を引くような乾いた銃声が、女子部校庭の方から聞こえた。

最初は、表の道路で車が何かしたのだろうと思った。それから少しして、銃声ではないかと気がついた。

またか？朝比奈は校庭へすっ飛んで行った。そして、寮から体育館への最短距離、校庭のど真中に見慣れた人影がうつ伏せに倒れているのを発見した。

春日千明だった。左胸を正確に射貫かれていて、もういいかげん虫の息になっている。寮の方から何人かが走り出てきた。

「ミユ……キ……？」

虚ろな目で春日は呟いた。上身を抱き上げて耳を口に近寄せる。

「ヨナイ……は……」

朝比奈がようやく聞き取れたのはそれだけだった。彼女は息を引き取った。

\* \*

進行の都合で時間が前後するが、こちらは男子部校庭隅のMA演習場、そのまた隅っこの交通研自動車班のオーバルコースである。新部結成には消極的なくせに、一度施設ができてしまえば現金なもので、交研の部員でない者まで車を持ち込んで走っていたりするが、自動車班は正メンバーが沖田玲郎以下片手の指で足りるだけなので、まったく問題ない。「隠居の特権」などと称して、南雲が古いセダンでイカサマ4輪ドリフトをかましていたりもするが、近いことは皆やっているからこれも一向に関係ない。

問題は、班長がオーバルに満足しなかったということだ。

「オレが走るとよ！」

そう豪語するが早いか、自力で鈴鹿のコースを真似て工事をおつ始めたのである。だがそこはれっきとしたMAの演習場で、隅っことはいえ一日に何度かは戦車が姿を見せる。

結果、コースは予定よりうんと早く仕上がってしまった。つまり、タンクドーザーが大活躍した訳である。ただしコースは富士の30°バンク付きになった。鈴鹿のブリッジは素人工事ではムリで、実際工事中にパンターGが一台生き埋めになっている。

走り初めは、M1A1戦車であった。

その他の行動／公開私信

・井村真知子

艦隊機動は嫌でも初雁艦隊の日課。

・野木坂若葉

「ケロシン」とはある麻薬を表す隠語です。航空燃料じゃありません。

・早坂理絵

如月からの反応は一切なし。「大空魔竜」は追加の電子機器が全部パー。飛ぶこと自体には影響なし。サークルの掛け持ちはできないので放送委員会へ帰ったと見なします。

・沖田玲郎

自動車部はこんな所からでどう？南雲の車は74ローレルってことで。

あと、桐野を脅すネタって、具体的にどんなの？MFの練習にはアグレッサー。適当に喧嘩売って下さい。宮崎弁についてはThanks。

・榊裕

軽音班。リーダーになって下さい。他のメンバーはエディ光次郎(NPC)だけと見なします。

HH-53Cを改造すんのね？こちらは有明の手抜きが幸いして壊れず。

・立花陽明

？

・正熊曜平

裏山の「入り口」は、正熊君は見つけていません。

・菅原絵馬

あとはモラルの問題です。ここだけの話、アーティはサ×××のシ×××××がモデル。

・朝比奈美雪

さて、どうします？

・梅田香奈

いちお、こういう事にしました。詳細は直に話します。

・春日千明  
ありがとう。

・南部沙紀

裏山調査は正熊からの情報に頼っていると見なします。スツルムピストルだろうが、クレオパトラだろうが、携帯するのは勝手です。風紀委員と周囲の白い視線が怖くなけりゃ、バズーカ抱えて授業受けても一向に構いません。

・坂井法子

武者修行モードは省略。因にはるなもサーキット入り浸り組の一人です。

校長から：

大雪のために大幅な遅れを……っつてのは通用しませんか、やはり。図書館の昼間勤務が始まって、時間の変化に対応できなかった、てのが一番の理由です。締切りで混乱させといてこのザマですから、申し開きの余地はございませんやね。

さて、以前から予告していた「真鶴アンチョコ」ですが、岩屋口氏のVMが素直に動いてくれれば、(FDDトラブルで今まで5回ほどデータが飛んでる)この本が届くころには家のHX様でバグ取りに入っているはず。既にその為に、WX II +ver2.56とVzエディタver1.6がインストール済みです。受入れ体制は万全。

……え？自慢はたくさんだ？こりゃ失礼。今までが今まででしたからね、どうも自慢したくなっちゃうんでげすよ。A IVも自前で買ったし。都市の発展が遅いのが引っかけますが、ま、こんなもんでしょう。もっぱら臨海地帯開発ですが。あのマップ横浜周辺ぼくて感情移入がし易いんで。

そのうちこの真鶴なんかも、エディ

タで打って、WX-Word for Winあたりで文字飾りをやって、それで印刷するようになるでしょうね。まだワープロソフトが入ってないんで、段組みが入る文書は今まで通りマイリポートN-10で打ち続けてますが。

そう言えば、そこらで売ってるファイルコンバータは、これの文書はDOSのファイルに落とせるのだろうか……それができたら、バックナンバーなんかは全部ディスク化して手軽に売り出せるんだけど……。さすがに20号を越えると、製本して発送するだけでも相当な手間になりますからね。準備号から持ってる人、商売のチャンスですぜ。

テキストで思い出しましたが、現在「Blowは五太郎 for DOS (98版)」で作っているはず。特に三雑は。ハードは98(初代Ap)なので、DOS文書はあらかた読めるはず。投稿をディスクで送る、なんてのも乙なものでしょう。金かかるけど。奴は文書のデータファイルまでHDにぶち込み、ゲーム等は「速いから」外付け5inFDDを主用するという罰当たりなので、ガンガン3.5inFDで文書を送り付けてお仕置きして下さい。ついでにLHA等で圧縮してやるとなおヨロシ。もちろん自己解凍なんて甘やかしてはいけません。

……パソコン持ってない人に、全然配慮してませんね。万事こんな調子だから参加者がどんどん抜けるんだろうなあ……

今回は12月。期末試験があります。リアクションで書くかどうかは判りませんが。あとは蠟八撮心とかね。

あとはシナリオ展開を先読みして、無茶な行動に出ないこと。真鶴は「悠久」のシナリオですから。



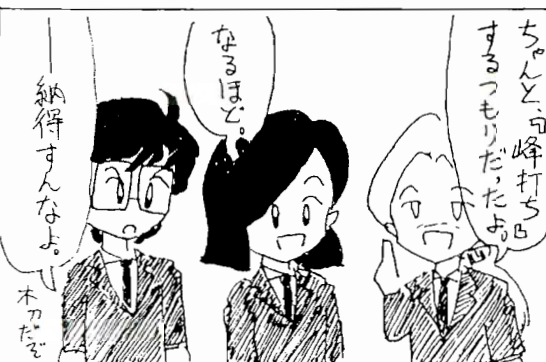
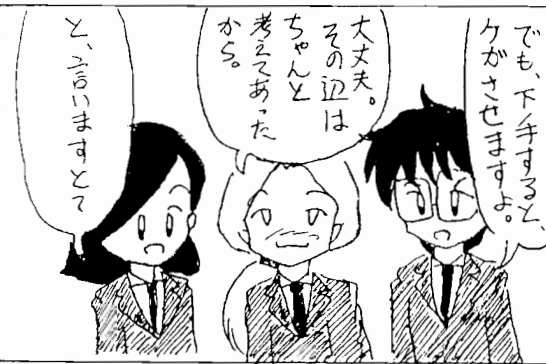
Vol.4の頃の話を話した。



こんな企画もありました



▲早坂



▲PPMの腐取もできるな。

武蔵のちりめん問屋です。

by ご隠居

今回は年末試験が好調だなあと気楽に構えていたら、こっち（本）の方で思わぬ落とし穴（語弊は有るが他に適当な用語が出てこない）を喰いました。編集を退いた身ですが、今までの事がありますので、誌上で済みませんがここに一筆。

まず、菊川君。

受験でデータ凍結だそうで。短い間でしたが、お疲れ様でした。こう言っちゃ何ですが菊川君は宮崎五人衆の中では一番影が薄い存在で、こちらとしても非常に不安になっていたところです。どこを狙っているのか、それは私の関与するべきことではないので敢えて伺いませんが、とにかく頑張ってください。私は試験に向けた人ではないので縁起が悪いでしょうから、敢えて祈ったりはしません。必ず来年吉報を届けて下さいね。

そして、渡辺君。

お止めになるそうで。こちらとしては勝手ながらその「若さ」に期待していたのですが、あるいはその「甘え」がそちらに重荷になっていたかも知れません。「アンチ・テーゼ」という言葉が嫌いなのでヘソ曲がりな事は書きません。もう2年くらいになりますね。長い間有難うございました。今回チィちゃんの扱いはあんなってしまいました。別に悪意をもってやった訳ではないのでどうかご了解のほどを。奏愁学園ではまだしばらくお付き合いいただくことになると思います。これからもよろしく。

どうもこういう場面になると事務的なことしか書けない自分が恨めしいものです。最後は一発決めますか。

みんな、

帰ってこいよ！

ついでと言っては何ですが。21号の参加締め切りが妙に詰まっていたのは、一方的に私のミスです。ミスと言うよりは慢心ですね。製版そのものは年末に終わっていたのですが、事故を恐れて発送日を伸ばしていたのです。その時点で気がつくべきだったのですが、その後定期試験までの短い間に一気に発送しなければならん！とばかりに例の如く突貫作業で印刷を始めたところ……まっ青。例によって例の如く印刷をやり直すほどの余裕は無かったので、そのまま突っ走ってしまいました。本来ならこの後何かでフォローを入れるべきだったのですが、ミスにミスが重なってそれもできませんでした。最後はヤケになって「何とかなるだろう」と思っていたのも事実です。特に遠方の方にはご迷惑をおかけしました。

申し訳ございません。

# 岬当麻には時間が無かった

おまけに最初書いた分は全直しになった……

泣けにならんわ

## 嘆きの真鶴学園風雲録

予告編 スマヌ……





と、言う訳で

12月分の放送は

ありません。

12月分行動は前後編。

M.

# 田中真人の 煙草落日誌 VOL. 1

十月◇★日

学校に冬休みが明けて学校に登校。SがPCエンジン版のイースIVを冬休み中に手に入れてプレイしたという。え？まだテレビでCMしているじゃない。発売されたばかりでしょ？S曰く、「日本ファルコムに直接出向いたらスタッフにプレイ後の感想レポートと引き替えにソフトをもらった。でも3日で解けたよ」コネがあるとは羨ましいモノですな。翌日、イースIVを借りたのは言うまでもありません。ハイ。

十月△△日

借りてきたイースIVは妹のお気に入り僕にオープニングビジュアルシーンを見ただけでプレイは全くしていない。この日も妹がプレイしていてデータをセーブしようとしたとき、「CDにセーブしよう」とちょっと待てお前は今までCDを記録できるモノだと思ってたのか？「え？セーブデータがちゃんと出てるよ」嗚呼…。

十月△\*日

学校のパソコンで実習時間中にキーボード傍らに実習内容をレポートとして書いていた最中のこと。シャーペンの芯がポキと折れて飛んで行き、キーボードのボタンとボタンの隙間に「あ、入っちゃった」。

やっぱりパソコンやワープロのキーボードを扱うときはカバーをかけましょうね。ちなみにそのパソコンがその後どうなったかは僕の知る所ではないです。(鬼?)

十月△△日

朝起きたら寝癖がついてて頭は鳥の巣状態。時間もないから髪を水で濡らしただけ

で家を出てチャリンコをかつ飛ばして駅へ直行。何とか電車には間に合ったけど道行くおばちゃんがジロジロと僕を見る。そんな変なヘアスタイルになったかと頭に手を伸ばすと「あ、凍ってる…」

十月\*△日

自動車教習所へ通い続けて早◇ヵ月。技能教習も3段階。しかも今日は単独無線教習。「よし今日はギアを3速に入れてやる！」と意気込んだまではよかったけど教官が横にいないからミスのオンパレード。ブレーキ踏み損なうわ、中央線はみ出てカーブするわ。エンスト何回したかな？極めつけは何を血迷ったか右手でギアチェンジをとっさにしてしまい、ローからトップに入ったときですね。(あんまり思い出したくないなあ)あ、そーいえば前にはサイドギア引いたまま発進しようとしたこともあった。仮免はいつ交付されるやら…。

十月\*★日

去年からの僕のお気に入りCDは何と言っても「超兄貴」。これを「面白いから」と付近の人にたらい回ししたら、周りも兄貴色に染まり、貸した人達からは「教祖」と呼ばれるようになってしまった。ここら辺までは「同志が増える」位にしか考えてなかったけど、思わぬところへ飛び火してしまいちょっとびっくり。飛び火先は某女子高生(複数)。

彼女達が授業の合間なんか「兄貴イー」とか「もうだめだ」と、互いに会話しているのを想像すると嬉しいんだけど複雑な気持ち。ちなみにこの超兄貴、ホント面白いから皆さんも是非聴いてみて下さい！ゲームミュージックとしてシングル「仁義なき兄貴」、アルバム「超兄貴 -轟轟-」が発売中です。何号か前の三等食堂でも紹介してありますヨ。

△月◇★日

秋葉原に久しぶりにKさんと買い物に出掛けました。僕の目当ては5インチフロッピーディスクとそのケース、コンピューター関連書籍。Kさんは中古ソフト売却と新作数本の購入。今回は渋谷から銀座線に乗って行きました。でも今日は土曜日。来るべき日を間違えたような気がします。秋葉原の土曜・日曜・祝日は歩道を歩くのも一苦労ですからね…。



とりあえず近くにあった「STEP」の地下を見ることにしました。ビジネスマン風の人達で混んでましたがさっそく秋葉原らしい怪しい商品を見つけました。PC-98用のグラフィックアクセラボード（画面に表示させる点の数を増やして表示させる情報量を増やすオプション。よーするにグラフィックがきれいになるんですわ）です。箱の裏を見て性能を見てみるとちゃんと640x480~1024x768ノンインターレース対応（色数は忘れた）と書いてある。このデのは平均3万円~8万円位の幅があるのですが、ここでは特価5,800。怪しい…。



Kさんがソフトを売りにソフマップ本店地下へ。そこでソフト査定順番カードを受け取る。

「ご、50人待ち…」

仕方がないので30分程そこらをブラブラして時間を潰して戻って来て書類を書き始めたら番号を呼ばれる。書類が間に合わず、番号は容赦なく飛ばされてしまった。

「また30分待つのかあ」

しょうがないのでもう一度カードをもらったら、484番。486だったら覚えやすかったのに（笑）。

また飛ばされるのがいやだったので今度はその場で待っていたのだけれど人が売るソフトを見ていても結構楽しめた。強烈だったのは古いソフトばかり一山売りに来た人。初代ザナドウなんか混じってた。

そのうちKさんの番が呼ばれ、査定、売

却の結果Kさんはいくらかを手にし、これが98の新作ソフトに化けました。



ブラブラ歩いてて気が付いたこと。メッセサンオーの3階があれ、同人ソフトフロアになっちゃってる。ここは前までスーパーファミコンやセガの海外版ソフトなんか置いてあったのに。でも、ま、同人ソフトは8ソフトが殆どだから今は見る気しないよ。



一通り用を済ませて自販機の前でジュース片手にくつろぐ。すると道路を一台のレッカー車が犠牲車を引きずり行く。

秋葉原のような混雑して路駐天国のようなところでもちゃんと取り締まりはやってたんですね…。(ちょっと驚いてる)

△月★\*日

Kさんの家にHくんと遊びに行く。最初はNEOGEOの餓狼伝説SPCIALと侍スピリッツで遊んでいましたが、飽きたので秋葉原で手に入れた三國志IVをプレイ。とりあえずはゲームの前に一般武将を作って遊んでみました。一人目は「古代進」。いきなり変な武将を作っちゃいましたね。二人目、「一堂零」。当然知力、政治力は低いが魅力、統率力を高く設定しました。三人目「錯乱坊」。(……) 四人目、「霸王丸」。これはバリバリの將軍タイプにしました。他にも幻庵とかナコルルとか作り、3人全員新君主でゲームを始め、たのですが、当然終わりません。データをセーブしてKさんの家を後にしたわけですが今回の新作、プレイ中にやる事が多くなってすごく面白くなっていると思います。

△月★\*日

担任の先生のお説教中の事。タイや台湾、韓国等からの留学生の混じるクラスで日本語の文章技法成績について語る。

「俺は情けないよ。文章技法での成績の一番が韓国のキム君だったんだよ」

当然クラス中が笑いとどよめきに包まれたことは言うまでもありません。(ハハハ！)

## 冬コミ。

■どんな具合だったのでしょうかね。田舎から出てきて2年になるけどコミケはまだ行ったことがないです。(パソケは1回だけ行った)冬コミも25頃やってくれば行けるのに。年末は非常に忙しい仕事なもので。  
(八王子市 羊歯田さん)

✕ハイ、僕は2日共行って来ました。冬は初めてだったんですけども今回もなかなか面白いものが見れました。特に印象深かったのは2日目の行列時にテレビ、スピーカー、ネオジオを持ち込んで餓狼SPをプレイしていたグループがいたことですかね。でも音がうるさくて周りの人は超迷惑ですよあれは。この日は僕は始発で来て7時前に会場で行列に加わったのですが餓狼をやめたと思ったら入場するまで何かしらのアニソンが大音量でかかっていた気がします。常識外れなことはいやめたいものです。

他にはコスプレが印象に残りました。一番多かったのは餓狼のテリーでした。(スタッフの林さんもしていました)他にはバッチリ決まったタキシード仮面、金髪に染め上げた髪をおっ立たせたスーパーサイヤ悟空、ハリボテの巨大な手を付けた怪僧ラスプーチン(ワール ヒーロー 2)、寒さをものもしないセーラー戦士&不知火舞。(餓狼伝説)そこまでするか?レオタードのキャミィ。(ストII)しかし見てて楽しいのはいいんだけどコスプレは準備会から忌み嫌われているので近い将来見られなくなるかも知れないのでこの雰囲気を楽しみたいのなら今の内に行ってみた方がいいですよ。ただし行列はパソケの比ではないので覚悟して下さい。(涙)

## 基本的質問。

■「空技廠」。これは何と読めばよいのでしょうか。  
(神戸市 豊田佳明さん)

✕これは「くうぎしょう」と読みます。BLOWERSの起源は現在のFOX AWAYに代表される空戦PBMのサークルとしてスタートしたことに由来があります。そのうちにBLOWが定期発行されるようになると空戦以外のものもいろいろ加わりましたが、空戦PBMは続けられ、サークル名も現在まで引き継がれています。読みずらかったのは多分「廠」の字ですが、これは旧日本軍において兵器や用兵等に関する研究、開発を行った組織や場所に付けられた字です。ウチの社長の旧軍好きから来たんでしょうね。それと空技廠の正式サークル名は「帝國海軍横浜空技廠」と言うんだそうです。(僕も社長に聞くまで知らなかった)ちなみにコミケ時のサークル名は「横浜空技廠」です。

## 龍虎2。

町中で見るとユリばっかですね。予想はしてたけど。リョウの嘆きがなんだか笑える……私は前作から引き続いてロバートを使っています。まだまだ全然勝てないけど。(神奈川県藤沢市 林孝始さん)

✕僕も龍虎2プレイしました。使ってるキャラクターはファーストがミッキー、セカンドはユリです。(格闘ゲームの女性キャラはどれも操作しやすく素早いのが多いから、ゲームをプレイし始めた時に使うことが多いです)感想を言わせてもらえばなんだか動きがカクカクしてるし、ズームアップ/ダウンが激しくて酔いそうになるしコマンドはいまいち入りづらいしであまり好きになれません。でもやりこめばかなり面白そうですね。そうそう、龍虎の拳2には超必殺技の他に隠し超必殺技があるのをご存じですか?今回Y氏の御好意によりその一部のコマンド公開することとしましょう。隠し技はLIFEゲ

ージが点滅中でないと出せません。(乱舞系は防御不可、?が付くものは完全ではありません)

リョウ/ロバート 龍虎乱舞: ↓↘→↘↓↙← C ユリ 飛燕鳳凰脚: →↔↔↘↓↙← B+C  
ジョン アトミックマッシュ: ↔↔↔↙↓↘→ B+C(蹴阿) キング ?サブライズゴズ: →↘↓↙↔↔↘↓ B+C  
リー 華中飛猿爪: ↔↔↘↓↙↔↔↙↓↘→ A ジャック ハダゲビツガ: (至頭際)→↘↓↙← A  
如月影二 斬鉄蟻虫拳: ↔↙↓↘→↘↓ B Mr. ビッグ 抜柵: (至頭際)↓↘→↘↓↙← A

(2月下旬現在)

## F-4。

■戦闘機はF-4シリーズが好きです。漫画の影響が強いのでしょうか。(新谷かおるのファントム無頼etc.) 僕は98のRXを持っていますが、その大戦略が結構好きでした。あれって戦闘機がたくさん出てきますよね。(神戸市 豊田佳明さん)

☞おおっ同志が増えた(笑)。僕もF-4は大好きです。ベトナム戦争時代の機体だというのに今だに使われているだけあって基本性能が高いんですねF-4は。大戦略で使っても値段の安さの割に戦闘機として使ってもいいし、爆装して対地攻撃機としても使えて非常に使いかっの利くいい戦闘機ですね。「大戦略EX」では偵察型のRF-4でお世話になりました。そういえば、去年の4月に厚木基地の航空祭にBLOWの編集者/読者が連れだって戦闘機を見に行きましたが、その時には航空自衛隊の百里所属(だったかな?)のF-4改が展示されていました。整備員がキャノピー開けて何かしてましたよ。

## 98。

■菊地さんが98互換機を購入なさったそうですね。PC-486HXですか。あれは速いですよ。やっぱセカンドキャッシュの威力が大きいです。グラフィック回りをローカルバス(エプソンはPCIか)接続なのも要因ですね。私も先日2度目の買い替えを行いまして、HXには及びませんがうちのも速くなりました。去年の4月にPC9801FA2からPC9821As/M2に買い替えたばかりなのとにいろいろと周りの人に言われたのですが、あえてAsを売って(たった¥110,000ですよ!ひどい)PC9821As2/U2に買い替えたのです。FAからAsに買い替えたときほど速くなっていませんが体感できるほどには速くなりました。セカンドキャッシュを載せたので。(載せなきゃそんなに速くならない)このAs2はお買い得品で、税込み¥234,800だったんです。え?そんなに安くないって?いえいえ更に7%還元ですから今一番安いんじゃないかな。Apも安かったけどP24Tが出るなら486DX2入らないかなと思ったもので。でもゲームするならMATEですよ。おかげで金欠状態ですが。

しかし、この買い替えによって現在プリンタが使えないんです。新MATEからパラレルインターフェースがセントロニクスのフル規格に変わったのですが、それを従来のプリンタコネクタに変換するアダプタが曲者。従来のケーブルだとショートしてしまっってプリンタが言うことを聞かないんです。仕方がないので今回は手紙はルポで書いてます。ああ本来ならJGで派手な文面が書けるはずなのに~。

ほとんどパソコンの話になってしまいましたが、今回はこの辺で。(八王子市 羊歯田さん)

☞すごいですね。FAからAsそしてAs2に買い替えですか?でもAsが¥110,000というのは確かにちょっとひどいですよね。ソフマップ1/1の情報だとAs買い取り¥155,000、As2販売¥229,800とあるから秋葉原まで出向いてもよかったのでは?行くのが面倒臭いなら移動買い取りサービスもしてますよ。(要出張費)しかしホントよくお金が続きますねえ。

ところでお手紙を読んでも羊歯田さんはパソコンに関してずいぶん詳しいようですね。住所が八王子市でパソコンに詳しくて通学…。僕はJR橋本駅から通学バスに乗ってコンピューターに関する学校に通っていますがもしや…???



# 恒例! 読者参加企画 第3次バトルテック大会レポート

遅ればせながら報告いたしますが、1/16に横浜TRELL-ONE開催したバトルテック大会には沢山の参加者が得られ、成功裏に終わることが出来ました。参加して下さった方々、誠にありがとうございました。今回は計9名のメンバーが集まり、2回対戦しました。そのスコアは下記の通りです。

1回目(バトルロイヤル) ※点数の見方 Mechは乗った機体 横軸/取った点数 縦軸/取られた点数

Pilot	Mech	Score	Kills	Deaths	JAGUAR	SEIREN	THOMAS	TREME	RAINBOW	RUNGURD	BASSO	SILCA
JAGUAR	Vulture V5	1119	3	1	677/0	878/0	330/0	0/0	327/1	0/0	274/1	943/1
SEIREN	Vulture V5	185	0	1	40/0	0/0	1090/0	120/0	0/0	280/0	236/0	0/0
THOMAS	Vulture V5	502	1	1	64/0	1286/1	15/0	122/0	116/0	0/0	210/0	20/0
TREME	Loki Prime	1347	0	3	692/0	257/0	407/0	48/0	467/0	920/0	454/0	8/0
RAINBOW	Loki Prime	1890	3	1	261/0	16/0	0/0	1314/2	105/0	510/1	172/0	312/0
RUNGURD	Loki Prime	1062	2	2	200/0	64/0	50/0	402/0	488/0	0/0	905/1	466/1
BASSO	Loki Prime	-572	1	3	169/0	74/0	100/0	822/1	144/0	71/0	453/0	700/0
SILCA	Loki Prime	600	3	2	530/0	6/0	324/1	30/0	48/0	732/1	948/1	569/0
Clan Wolf		766	13	14								

## 2回目(チーム戦)

Pilot	Mech	Score	Kills	Deaths	TREME	SILCA	BASSO	THOMAS	SEIREN	KIN-NO-JI	RUNGURD	ASAMI
TREME	Thor V6	-281	3	4	509/0	72/0	38/0	48/0	1140/1	533/0	1641/2	0/0
SILCA	Loki Prime	-853	0	4	234/0	0/0	0/0	172/0	226/0	405/0	430/0	100/0
BASSO	Loki Prime	1988	3	3	112/0	0/0	63/0	384/0	96/0	169/0	1559/2	847/1
THOMAS	MadCat V1	1391	3	2	0/0	24/0	0/0	14/0	913/1	1588/2	294/0	288/0
Kurita		561	9	13								
SEIREN	Vulture V3	1210	2	2	1586/2	228/0	0/0	919/0	157/0	74/0	0/0	0/0
KIN-NO-JI	Thor V6	1664	6	3	1324/1	2360/3	318/1	555/1	65/0	1306/0	117/0	0/0
RUNGURD	Loki V1	-210	3	4	955/1	348/0	1389/2	155/0	0/0	0/0	8/0	0/0
ASAMI	Vulture V2	948	2	1	33/0	388/1	371/0	469/1	0/0	0/0	8/0	86/0
Davion		903	13	10								

特攻の歌 作詞 本居の先輩さん 曲: 爆風スランプ/ランナー

1. 壊れかけた 格納庫で  
君は少し うつむいて  
もう戻れは しないんだねと 言ったね
2. 先輩達に 呼び出されて  
いわれもなく 殴られて  
誰の数を 数えて唄った あの頃

瞳の中 狂気宿した  
悲しいほど 愛国者の  
君に何を 言えば良かったのだろう

かかえきれぬ恨みを胸に  
水杯 飲み干して  
振り返らず この基地を出ていくのか

A. 武装のない 少年の  
機体は飛び去って  
腹に一つ 爆弾付けて

武装のない 少年の  
機体は撃ち落とされ  
敵はいつも遠く 見えてた

B. 撃ちる撃ちる ゼロ戦  
群がる敵機 かわせずに  
もしもたどり着いても  
誰に撃ち落とされるだろう

B.

たとえ今は小さく  
弱い日本だとしても  
あきらめない俺達  
進め一億火の玉だ

A.

B.

C.

B.

たとえ今は小さく  
弱い日本だとしても  
あきらめない俺達  
ひどく暑かった日の原爆

対戦後はそれぞれアーケードに散らばってカラオケまでの時間を潰しました。本来ならこの時点で鯉狼SP大会をする予定で台も確保しましたが、時間がなかったのでお流れになりました。次回は是非やりたいと思ってます。4時からカラオケ。実は僕はカラオケが苦手です。今まで人と行ったことがなかったため、持ち歌がなく、この日は1曲も歌えませんでした。そんな中で「青い山脈」の替え歌唄ってドひんしゆくを買った社長はさておき、大いに盛り上がったのが本居の先輩さんの左記の歌。こんな替え歌を知っている方はぜひ次回のカラオケに参加して!

## 行け 行け外回り -- 北九州阿呆列車篇 --

特に大した用はないけれど、博多へ行こうと思う。例によって例の如く、クレギオン関係のイベントなのだが、実態は去年のシナリオの同窓会であり、情報交換など目的に含まれていないので、ゲームに直接の関係はない。しかも、主催者のいたランチ（組）と私のそれに直接の関係はないに等しくて、同じ情報同人誌に参加していて顔を見知っているという程度だから、ほぼ完全な観光である。

場所が場所だから、おまけを連れて行こうと思う。うまい具合に三浦が都合をつけて、来る事になった。大体この種のイベントでは男女別室が原則で、女性の人工密度は低いから、彼女一人増えても困らない。むしろ場が明るくなっていい。

天神で午後の7時に集合なので、朝9時半に新横浜を発つ「ひかり」で行こうと思う。向こうに着くのが早すぎると思うかもしれないが、2時間の間に「阿呆列車」が運転できる。三浦の方はそんな企みがあるとは知らないから、平然と話を受けた。

出る当日は菊名で待ち合わせた。私の家からなら新横浜まで直接出向いてもいいが、山を越さなければならぬし、三浦は菊名に出た方が都合がいい。両者利害一致して、大変納まりがよい。その「都合がよい」のはバスを使えばの話で、帰りがどんな天気になるか判らないからそうしたのだが、それでも三浦はオートバイで来た。

「バスで来いと言ったぢやないか」

「バスぢや遅れそうだったのよ」

今回は往復で経路が違うし、道中三泊する間に雨が降るかもしれない。だからオートバイはよせと予め言っておいたのだが、結局こうなった。なまじ取り回しが良すぎるから、オートバイは嫌いである。結局この日の晩に横浜は久しぶりの大雪になって、だから勿論三浦は横浜駅からタクシーで帰る羽目になった。菊名駅で放置された三浦のオートバイはその間に木の枝から落ちた雪塊にミラーを持っていかれて、余計な出費になった。何年か

前にも似たような事があって、だからあのオートバイは雪に祟られているかも知れない。

2月11日午前9時23分定刻通りに「ひかり39号」は新横浜駅を滑り出した。我々が乗るのは11号車で、指定席の並びである。当日東海道に限っては前日からの風で雲一つ無い快晴であった。小田原の手前から富士山の雄姿を拝見する事になる。富士山に感慨を覚えるのは関東の人間だけだとよく聞く。最近是新幹線と富士山がかかり言葉のようになっていて、それほどでもないだろうと思うのだが、車中の客がみなそちらの方ばかり向いているのは、上京者ばかりのはとバスの趣を呈し、面白い。私はもう何度もここを通っているからそれ程珍しくもなんともない。だからおとなしく海の方を見て、旅慣れた風を装う。本当は皆が阿呆の如く一斉にそっちを見るようになる前に富士を拝む術を心得ているので、だから全然見ていないわけではない。

三浦が車販のビールを買う。これも事前に注意しておいたはずなのだが、やはり言う事を聞かない。呑み会に行く前、それも朝っぱらから酒を仕込む奴があるかとたしなめると、これは食前酒だからいいと屁理屈を言った。

気がついてみれば豊橋を通過している。新幹線が一番いけないのは早過ぎることで、普段大阪京都までしか行かない時など、下手をするとタイミングを外して降りる先迄我慢させられる羽目に陥る。今回の場合も景色の良い熱海浜松では時間が早すぎるし、第一もう過ぎてしまった。となると正午の京都大阪辺を待つことになるが、実際そこ迄行ってみると食堂車の案内板は満席ランプがつき放しである。岡山まで我慢はしたが、それ以上は時間の方が許さない。生き別れ相席もやむなしと押し掛けてみれば、満席というほどもなく、ただどのテーブルにも客が居るというだけであった。

山口県内に入った途端、雪となる。関ヶ原も積もってはいたが、こちらは降っている分だけ貫禄がある。鉛色の天から横殴りに降り

込んでいるから、乗る列車を間違えたかのような錯覚をおぼえる。小倉を過ぎた辺りで雨に戻ったが、この辺りで関ヶ原の遅れはほぼ取り戻して、だから予定通り博多門司港間の区間阿呆列車も不自由無く出発することができる。10分弱の接続で、新車の快速だった。転換クロスのみとな椅子だが、妻板に「自由席」の表示が出ていたところから察するに、急行か何かの指定席にも使うのであろう。だとしたら、デッキの仕切りもない3扉で、ドア鳴りまでする安普請にも規定の料金を取っている筈で、怪しからんといえば怪しからん話だとおもう。そう思ってよく見てみれば、網棚に席番票がついている。

車内の設備は中途半端だけれども、速度の方は申し分無い方で、うつらうつらしているうちに門司港についてしまった。「ひかり」といいこの快速といい、汽車が早すぎるのもどうかと思う。こちらはもう少しかかるつもりでいたから拍子抜けすることしきりで、白色灯ばかりで薄暗い、古色ゆかしい駅舎もろくろく見ずに、そのまま折り返す車室に居座った。持っている切符は周遊券だから、何も後ろ暗いところなどない。

行きと同じにうつらうつらしながら博多へ帰る。今夜は当地でネットゲーマーの呑み会である。主たる団体は私のそれと別だが、来てしまえば関係ない。指定の時間に集まったのはわずかに7人だったが、あるいはこの方が普通かも知れない。いつもの団体では桁が一つ多いが、多すぎるという気もしないではなかった。それで飲み屋へ行ったが、博多あるいは天神というところは渋谷近辺と街の様子がまるで変わりなくて、遠くへ来たという気が全くしない。だから飲もうという気も全く起きない。飲み屋はカラオケボックスも兼ねる造りで、初対面の人ばかりだから選曲をなるべく抑えて適当に歌っているうちに遅れ組が10人くらいやってきて、何だか解らない内に宿へ中抜けすることになった。もともと10人部屋のところへ20人ほどが押し掛けていた計算で、それでは酸欠気味になるのも無理はない。だから、最初は遅れ組の荷物

を宿へ運ぶだけでまた戻るつもりが、静かな宿で留守番する方に落ちてしまうことになった。カラオケボックスというのも変なところで、大概のところにはエアコンはあっても換気扇はない。冷やせば良いとでも考えているかもしれないが、歌えば余計に空気を消費するのだから、換気扇の方が必需品なのは自明だと思う。

翌朝は9時前に起きた。結局酒抜き、飯抜きで、今までの旅行では考えられなかったことである。風呂にも入っていない。次いでに言えば、この日朝食は11時頃になったから、事実上2食抜きだった。もっとも二食くらい抜いた程度で人間死ぬものではない。

当日は自由観光だったので、香椎まで出て「点と線」の实地検分を実施することにした。松本清張がここを舞台にした当時とは街の様相も変わっているだろうことは想像に難くなかったし、前日の門司港行きである程度感覚はつかんでいたが、実際に降りてみればやはり東京近郊のごときである。尾山台のようだと三浦が愚痴るがまったくその通りで、歩いていてもつまらないから香椎の海岸まで行かずに帰る事にした。一応の表敬として西鉄を使い、流れで地下鉄も使って天神へ直接出る。国鉄が4両の新車を主用するのに対してこちらはお古の2輛編成である。古いものは好きだが、周りの景色も同じ様に古くて小さいから、どうしても見劣りがする。私のような好き者ならともかく、一般の客には受けが悪かろう。対照的に地下鉄の箱は立派だった。天神に出るには西鉄の乗換駅から更にもう一度乗り換えを要するのだが、この二線は東京とは違うやり方で合流していて、このとき初めて距離を意識した。当地では合流駅から街の中心地であるところの天神駅まで一駅の間を複雑線のトンネルで引っ張って、天神駅に入る前に複線のホームへまとめてしまう。東京なら接続駅で素直に合流させてしまおうか、さもなければ最後まで合流させずに歩かせる。少なくともこんなに無駄な事はやらない。確かにこうした方が駅間の線路容量は増えるが、時刻表を見る限りはそんなにたくさんの列車

は走っていないのだ。

天神で降りて、歩きで宿へ帰った。後は阿呆のように二人で部屋でたずずんだが、3時過ぎになってラーメンを未だ食していない事に思い当たった。博多へ来て、そろそろ丸一日経とうというのに、未だ口に入れた物は持ち寄りの菓子とありきたりの朝定食だけというのは由々しき事態である。もはや一刻の猶予もならない。とるものもとりあえず、すぐに宿を出た。だが怪しからぬ事に、ラーメン屋そのものが天神界隈には存在しない事が間もなく判明した。どうやら夜間営業の屋台でしかラーメンにありつけない事になっているらしい。公正取引委員会に訴えても良いくらいの寡占状態である。ようやく地下街で一軒見つけたが、その時にはもはや蕎麦の体裁をなしているものなら何でもいい気になっていた。味の方はまあまあだったが、思っていたより味があっさりしていて、気抜けした。もっとも土産に買って行ったラーメンもやはりあっさりで、だから長浜ラーメンというのはあっさりしているのかもしれない。東京の天下一品は同じ豚骨でも糸を引くくらいねっとりしている。博多から東京へ来る間に水分も飛ぶのだろう。ラーメンを征服して宿に帰ると、市街観光組が宿に戻っていた。

事の発端が何だったかは最早はやおぼえていないが、気が付いたときには四字熟語の尻取りの輪に入っていた。要は、尻取りの単語が四字熟語になっていないといけなのだが、一字と三字に分かれていた時は逆周りに変わるなど、いつまで経っても終わらない。そのうち「××有□」（××あります）だの「○○△殺」だの正規の四字熟語ではない物まで続々登場するに及び、規制の方が多くなって来て、いいかげんところで風呂の時間になって自然に流れた。

翌朝は7時半の起床で、早々に札幌へ帰る人を福岡空港まで送った。ここはもと米軍の板付基地だったところだが、今ではその面影は全くないといってもいい。一昨日からの大雪で飛行機は遅れに遅れを重ね、特に全日空のそれがひどかったが、目的の便は定時だっ

た。日本航空の直行便である。

その後は宿へ帰り、後始末を澄ませて、再び昼間からカラオケへしげこむ。この時のメンバーは初日のそれで宿へ帰っていた組で、その意味では同情の余地は十分に有る。この時は「恥はかき捨て」とばかりに一気にやりたいようにやったが、さすがにあからさまな軍歌は控えた。静かなところで「戦友の遺骨を抱いて」を取ったが、静かすぎてかえって場が引いた。反省材料である。

三時をまわって新幹線で帰る組を見送る。これでいよいよ二人きりに戻った。我々は六時半の「はやぶさ」で帰る事になっていて、B個室寝台の予約も済ませてある。大元をただせば、今回の旅行はこの為に為したような物でもある。それまでの三時間、特にすべき事もないから、土産を買ってから、また小倉の方へ各駅に乗った。三度目になる計算だが、何度乗っても遠くにいるという気分がしない。終いには時差ぼけのような気分さえなったが、だからといって悪い気分ではない。海こそ見えないが戸塚の辺りを横須賀線で通っている感じでもある。あるいはこの奇妙な距離感が、疲れを抑えているのかも知れない。だとしたらむしろいい事だ。

「はやぶさ」が博多に着いたのは3分遅れであった。この程度なら許容範囲だろう。とにかく地方からの優等列車には「見送り」による遅れが付き物で、乗り継ぎにも悪影響を及ぼす事が多い。どっち道、これで横浜まで行ってしまうのだから、どれだけ遅れたところで構わない。

Bコンパアトはカプセルホテルよりはマシという程度で、あまり期待しすぎると裏切られる。だが、BGMの選択ができるし、目覚まし時計も有る。その気になれば室内灯は夜中つけ放しにもできるので、全く自由である。その限りにおいては、料金が普通のB寝台と一緒になのだから、お得といえる。もっとも目覚まし時計は試して見たら音量が小さくて、保険にもなりそうにならなかった。BGMも実際に聞こえたのは6チャンネルの内3チャンネルだけで、その3チャンネルの内1チャ

ンネルは出発してから横浜で降りるまでずっと針跳びし放しであった。どういう機構なのかは知らないが、半日以上も放置するとは乗務員の怠慢もいいところだろう。

暖房のせいで空気がむやみに乾燥したのも問題である。空き缶に水を満たして、隅の方に靴で倒れないようにおさえておいて、ようやく対処したが、加湿器の設置が待たれる。換気扇の容量が少ないのも気にかかる。灰皿が有るからその気になって紫煙を上げていると、忽ち部屋の中が煙幕を張ったようになる。それではと、営業を止めてただの集会室に成り果てた食堂車へ行ってみれば、何やら団体客が宴会をやっているし、ロビーカーの方はソファがふかふかしすぎていて逆に落ち着かない。結局部屋の扉を開けておいて、それで煙草をやることになる。

寝る時になってみれば、カーテンは開け放しにできるし、邪魔が入らないのでいい事尽くめである。この味を知ってしまうと、どうも開放B寝台が見劣りして見える。広々していいのは開放の方なのだが、個室のメリットは寝ている時のプライバシーだけだと思う。起きている時は、景色が片一方しか見えない。特に上り列車は伊豆近辺の海岸線で朝を迎えるのに、室内からは海が見えないのだ。これほど怪しからぬと感じた事は今回無かった。悔しいからまたコンパートの扉を開けて、そこで階段に腰掛けて海を見た。ただ、それも真正面が窓枠の柱になっていて、邪魔をする。立てば立ったで窓が低いから逃げ場なしである。

横浜で降りてから、すぐにタクシーで帰った。案の定家の近辺は凍結していたから、運転手氏は大変だったろうが歩くよりも楽をした。二食抜いているからタクシー代は出た。いい旅だった、と記しておこう。

この文書はMS-DOSのテキストファイルで書かれておりましたのを段組み編集したものです。PC-98とその互換機をお持ちで長文を投稿される方がいらっしゃいましたらこの方法でディスクを田中宛に送って下されても構いません。メディアは3,5、5各インチ2HDフロッピーディスクに限らせていただきます。

なお、投稿の際は文書の起動のさせ方、フロッピーの返却希望是非、その他注意点をあらかじめ紙に書いて同封しておいて下さい。

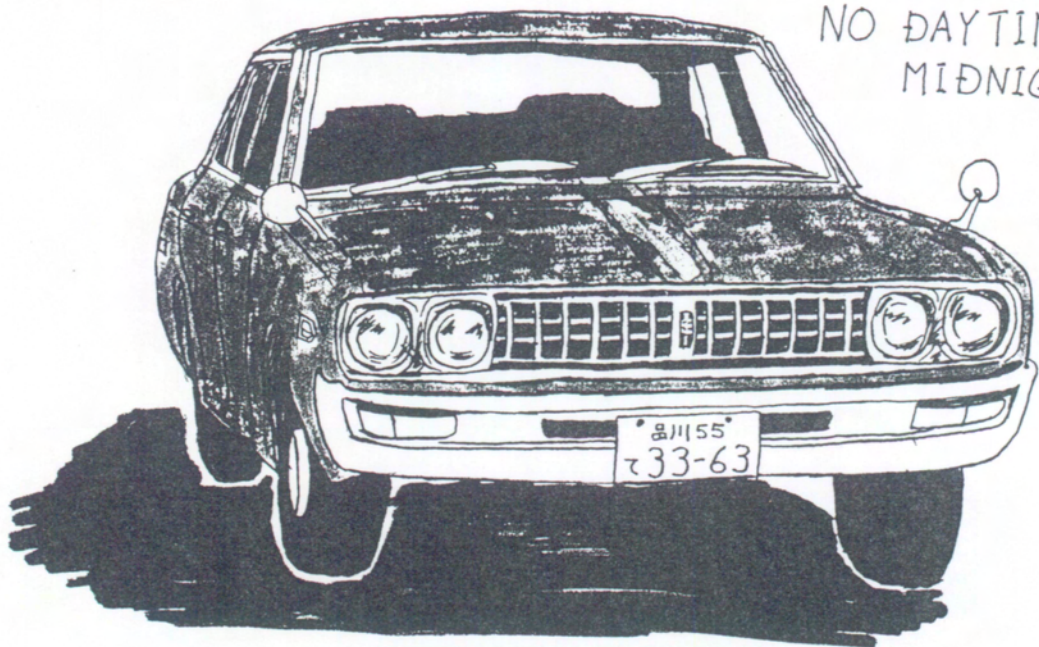
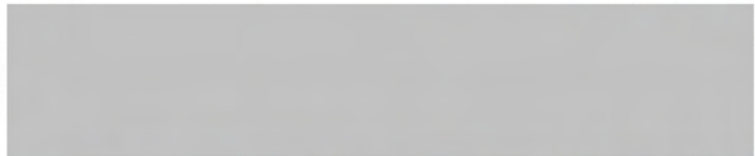
WANTED  
TO DAILY RIDE

NISSAN '71~'74  
CEDRIC (type 230)

• KEEP LIVE ... COST + ¥10k  
ORIGINAL ... " + ¥200k  
COLUMN SHIFT ..... The other ¥10k ADD

• Photo .... Price + ¥ / k

ASK



NO DAYTIME &  
MIDNIGHT

# 新連載! Fantasy Table Talk Role Playing Game Replay Novel

## 『六色のザガー』

本作品はグループAICOSのメンバーがロードス島戦記コンパニオンのルールを用いて荘厳な設定の元で、チンケでみみっちい人生の汚点とも言える冒険の軌跡を記したものです。下記に参加したキャラクターの特徴と外見のラフスケッチを紹介しましょう。



名前: デーン  
クラス: 騎士  
年齢: 20  
得意技: 空振り、イニシアチブのトコさ  
冒険の目的: 美しい司祭の嫁を見つけること  
好きなもの: 正しいこと、肉料理、騎士道精神  
嫌いなもの: 悪、GM、この世界の一部の神  
コンプレックス: 自分より能力の高い者への嫉妬する自分



名前: アドゥン  
クラス: 盗賊  
年齢: 54 (トワーブ)  
得意技: フレイル  
冒険の目的: 名の売れた盗賊になること  
好きなもの: 酒・金  
嫌いなもの: 衛兵  
コンプレックス: 特になし



名前: エルグイン  
クラス: 僧侶  
年齢: 32  
得意技: 電波?によるオシヤカ様との対話、介錯  
冒険の目的: 我流「オシヤカ様教」の布教  
好きなもの: 信者、光沢のある剣の刃、拷問尋問  
嫌いなもの: 自分の教えを信じない者  
コンプレックス: 首をはねることに驚喜する自分

名前: とるねこ

クラス: 僧侶

年齢: 46? (ドワーフ)

得意技: メイス

冒険の目的: 金集め

好きなもの: 金、宝石、貴金属収集

嫌いなもの: 貧乏、ホームレス衛兵

コンプ レックス: ???



名前: サムソン

クラス: 戦士

年齢: 20

得意技: 妙技 筋肉斬り3回溜め攻撃

冒険の目的: マッスルになるため

好きなもの: 筋肉なオトコ

嫌いなもの: 筋肉じゃない男

コンプ レックス: 顔に付いた筋肉



名前: クラント

クラス: 魔法使い

年齢: 16 (エルフ)

得意技: メモ

冒険の目的: 不明

好きなもの: ココナツツミルク/筆記具

嫌いなもの: 自分より野蛮で醜い者

コンプ レックス: 攻撃的な者



名前: フォウリー

クラス: 精霊使い

年齢: 160 (エルフ)

得意技: パルキリース' ジャベリン

冒険の目的: 生き別れた双子の子供を探すため

好きなもの: 酒・ハーフエルフ

嫌いなもの: 火・ドワーフ

コンプ レックス: キースに対する罪悪感

名前: ルーサー

クラス: 魔法使い

年齢: 57 (ハーフエルフ)

得意技: 杖と短剣投げ&ライトニング' ホールト

冒険の目的: 父親探し(文句を言うため)

好きなもの: 猫、果物、母の形見の杖

嫌いなもの: 高い所、熱い物

コンプ レックス: 自分に流れるエルフの血(普段は耳を隠す為にターバンを巻く)





## プロローグ

まず自己紹介といこうではないか。私はここアルストリア担当の監視員だ。まあ、人によっちゃ神様なんて言う奴等もおるがこれは間違っているぞ。私は親切だから順番に説明するが、まず一番上にこの次元全体の創造神が居る。この方がどこから現れたか、なーんて考えてはいけない。大神あるいは次元神と呼ばれているお方がまず、大神様やその他の神々の住む天界、自然の力を司る精霊達の世界である精霊界、剣と魔力の文化の世界アルストリア、科学文明のフォルトア、光だけの世界に均衡を保つための闇の支配する世界ゼルトルスの5つの空間を創られ、それぞれに自分の力を分け与えた神をお送りになった。これがその世界の創造神というわけである。それで、その仕事がちゃーんと世界の隅々まで行き渡っているかどうか大神様に御報告するのが私の役目である。そして、もし何か不祥事が起こったらその世界の住人の幾人かを導いてやるのも仕事の内なのである。滅多にないことだが…あっ、そうそう私のことはこれ以後「マスター」と呼ぶようにね。

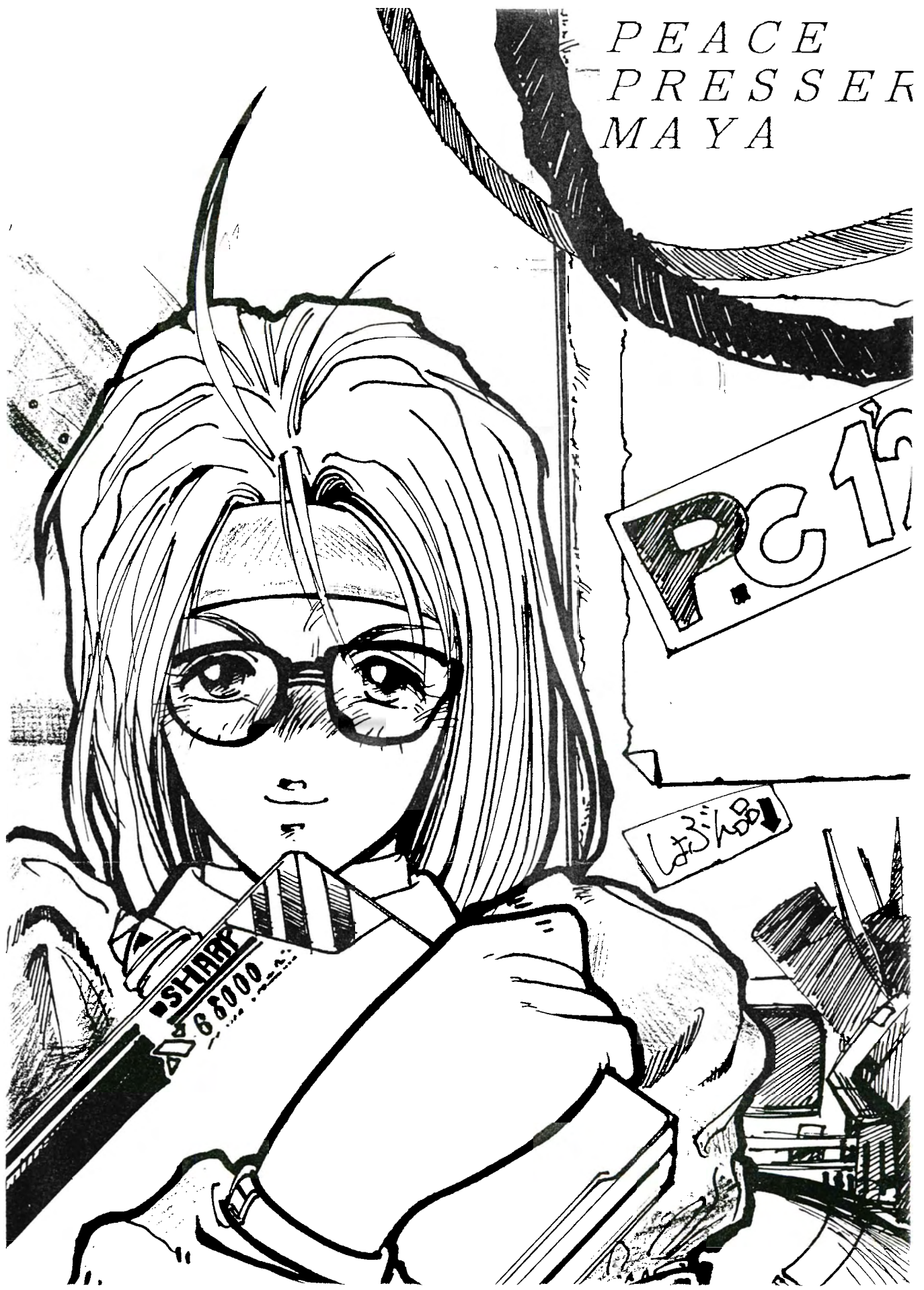
それでだ、ここアルストリアはお主らの科学の世界フォルトアと違って魔力というものがあるし、神の影響力も断然強い、ここの世界は純白のドラゴンで住人達は確か「聖竜ファイン」と呼んでいる。しかし、こいつは最初っから失敗をしでかした。自分の身体に光を当ててその影から闇のドラゴンを生み出してしまった。そのドラゴンはドラゴールと名乗り、自分の配下たる魔物を創り出してあろう事かファインに戦いを仕掛けた。これがこの世界の暦で2000年ほど前のことだ。この戦いはファインがドラゴールを封印して大陸の北西の海に沈め、ファイン

も天界で眠りについたことで決着が付いたが、400年ほどの後、そこに島が出来た。この島は既に伝説となった戦いからドラゴール島と名付けられてアルストリアの犯罪者の流刑地となった。そして更に200年後、ドラゴールから魔物と闇に取り憑かれた人間達が海を渡りアルストリアに戦いを仕掛けてきた。この戦いはすぐに決着が付いたが、この後30年の間隔で戦いが続いている。

と、ここまでは良かったのだ。何せ闇の世界ゼルトルスでは2000年間ずっと戦いが続いているのだからな。それに比べれば30年間隔なんてまだましな方なのだが、28年前にいい加減何とかしようとして光の陣営に数人「矢」を付けてやった。これは「白羽の矢」というものだが、計算違いがあってドラゴールの封印を弱めてしまった挙げ句ドラゴールの闇の騎士にファインの聖騎士がやられ、それでも何とか光が勝ったという状況になってしまった。一番の失敗は補給線を断たれて退却しかけたドラゴール軍3万とファイン騎士団8千がシャースーンという丘で消耗戦なんぞをやりおった挙げ句、ファイン軍二人が生き残ったのみとなってしまったことだ。さすがにこれは呆れたぞ。そんなこんなで小言を言われながらも新しい「白羽の矢」8本を大神様からいただいてこれた。しかし、BUT、けれども前回の失敗を繰り返さないようにしなければいけないのである。なるべく優秀そうなものを見つけて…あっ！！矢を全部落としてしまった！！どうしよう、全部下界に落ちてしまった…。

(続)

PEACE  
PRESSER  
MAYA



9：電電公社ハヤニーヤを訪ねた足で、私はそのまま県警の科学捜査研究所（科研）へ向かった。地球上では東京警視庁のそれに次ぐ規模と、それに見合うだけの能力を持っていて、科学捜査の権威として行政警察界に君臨している。そこの研究員の一人に古い貸しがあるから、彼に頼るつもりだった。

例によって道がまだ悪くて渋滞したから、次いでにゆっくり封筒を検分してみた。消印は最初がペトログラード、次いでウラジオストク、新瀉、東京の順で並んでいる。航空便がたどるごく普通のコースで、約4日で届いている。順当なところだが、……4日？彼女は万が一を考えて、すぐ逃げ出せるように陸路を積極的に使ったというから、出発してすぐに敵は彼女の動きを把握していた計算になる。極秘で動いていた割には情報が筒抜け同然だった訳だ。あるいは尾行が付いていたのかもしれない。それなら来日直後から狙撃されまくった原因も納得がいく。

肝心の中身の方は、全文がキリル文字で記されていて、さっぱり理解できない。現在国連内での公用語は英語で、その他の言語はほぼ廃れているから、単純に考えればこれはロシア人主犯説を裏付ける証拠になる。ただ、大きな図書館に行けば、独仏露語くらいの辞書は備わっているから、その気になれば誰でもそれぞれの言語で文章が書ける。私も先祖伝来、日本語なんてマイナー言語を受け継いでいるから、誰かが日本語使って変な事したら、容疑者に含まれることになる。

素人検分が言語の壁に阻まれたまま、科研の敷地に入っていった。ここは一見ただけだと民間の研究施設かどこぞの私立医大のようで、とても警察の建物とは思えないのだが、正門に制服

警官が詰めているのと、正面入り口に無粋な赤ランプがぶら下がっているののでそれと判る。中はきれいに手入れされてピカピカしているが、いろんな薬品の臭気がぶんぶんしていて、お世辞にも居心地のいい所ではない。大体、いる連中のほとんど全員がエリートの臭いを立てていて、好かない。

知り合いの研究員の研究室は前来たときと変わってなくて、相変わらず散らかり放しだった。

「彼」はちょうどピーカーにインスタントコーヒーを沸かしているところで、すぐに私に気が付いた。

「コーヒーは？」

「要らない」

どう考えたってピーカーは薬を入れるもので、食器じゃない。そんな物から物を口に入れるくらいなら、ためらわず飢え死にする方を取るだろう。

アルコールランプからハンドタオルで器用に（そんな事で器用になっても仕方ないと思うのだが）「コーヒー」をアスベスト・ネットから降ろすと、「彼」は例の封筒を受け取った。

「これが何だって？」

封筒の中身に目を通して、怪訝な表情で聞いてきた時には、正直戸惑った。何と解説しようにも、具体的なことは何一つ判らないのだ。脅迫状らしい、としか言いようがない。

「脅迫状だなんて、こりゃただの友達同志の私信だ」

「ハ？」

まさか、そんなバカな。

「一応、ロシア語の心得はあるんでね、文献読むことがあるから」

「何かの暗号とか」

「まさか。そりゃ、調べれば何か出るかも知れないが、確率としては低いな」

「焙り出し」

「幼稚園児じゃあるまいし」

いつそヤーニヤの「特殊体質」の事を挙げて、その筋の関係も挙げてみたかったが、さすがにそれはやめた。現状ではどこから情報が漏れているのか判らないのだ。とにかく、無理を言って機械にかけてもらうことにした。

最初にかけたのは文書を光学的に読み取って、法則性などから暗号を解説する装置だ。未だ手書き文字を完璧に判読するまでには至っていないが、活字なら100%行ける。だが、これにはひっかからなかった。

次に不可視光線によって「焙り出し」のような媒体を発見する装置を使ったが、こちらは「何か有るかも知れない」という程度で、完全に黒とまでは言い切れなかった。

「こいつは敏感すぎてね。ただの汚れでも情報と間違えることがよくある。地震の後だ、調整が狂ってるかもしれない」彼はそう弁解したが、ある程度興味を抱き始めたようだった。乗ってくれば、こっちのものである。

最終的に、磁気インクによる電子的情報が見つかった。ただその「書式」が問題だった。

「何だ、こりゃあ！」

解析機にかけて内容を読み取ろうとした彼は、両手を挙げて降参のポーズを取った。

「ダメだ。ここの機材じゃこれ以上は読み取れない」

どういう事だろう？世界有数の研究機関なのに？

「書式が古すぎて、今の機材は対応してない。……多分、どこへ持って行っても、こいつは読み取れないだろう」

なるほど。そりゃ盲点だ。あるいは「差出人」は、そこまで計算づくで攻めて来たのかもしれない。ヤーニヤが

自前で判読できずに———こうした磁気情報も彼女の「能力」の内と仮定しての話だが———県警の施設を使おうとしたのも、それなら筋が通る。しかしそんな古い書式を、「差出人」はどうやって再現したのだろうか。単純計算でヤーニヤが生み出された20数年前、それよりもさらに昔の規格を？当時の機械を持っているとしたら、それはそれで凄いことだ。

「どのくらい昔？」

「……こいつは、150年は前の機械語……原始的な制御言語だ。見てみる。二つのアルファベットと、数字だけでプログラムが構成されている。ハード自体の文字コードそのものは今も当時も変わりはないから、プログラムを見る事はそんなに大した事じゃない。だが、ハードの技術レベルが進みすぎて、こんなに古いプログラムは実行できないんだ。

「俺の知ってる範囲では、こいつはさらに圧縮がかかっている。この書式に対応した圧縮ツールが無いと、使える状態にはならん……100年は前のソフトだ」彼は頭を抱えこんだ。「どんな奴なんだ、こんな手の込んだマネをかますのは……」

うへ。制御言語だの、圧縮だの、よく判らない単語がぼろぼろ出てきたが、とにかく古すぎて逆に対応できない事だけは判る。ヤーニヤには全部判るのだろうか。とりあえず今の話は彼女にもしてみよう。

細かいことはメモにしてもらって、礼を言って、日が改まってから、もう一度電電公社へ出向いた。目的はもちろんヤーニヤである。

10：私の話を聞きながらメモに目を通したヤーニャは、しばしの間頭を抱えて、何かを考え込んでいた。どうしてこう、頭のいい連中は考え込む時に頭を抱えるのだろうか。そんなに重いのなら少し楽にすればいいのに。

5分くらいしただろうか、私のイライラが頂点に達して、出て行こうかと思いはじめたころ、ようやく彼女は頭を上げて、聞いてきた。

「この辺りで、電子部品の手に入るところは？」

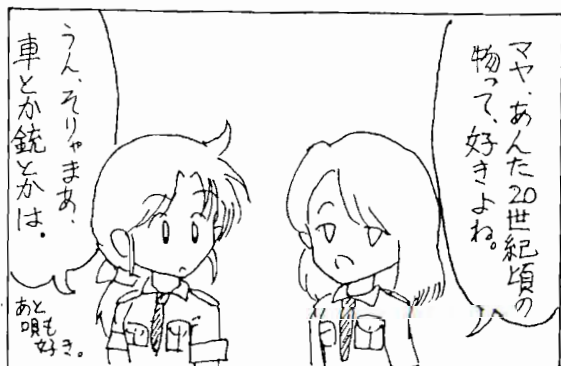
「秋葉原」

言下に答えてやった。関東圏の地理ならお手のものだ。電気部品で秋葉原以上に揃うところは無いと断言できる。製品についてはもはや往時の隆盛など見る影も無いが……電子には弱い私でも、電気工事の方は得意だから、ここにはよく世話になる。

電電公社のある有楽町から秋葉までは車で普通30分も有れば充分だが、復旧工事のお陰で1時間はかかった。震災以来こっちの方まで来るのは初めてだが、案の定高架鉄道の鉄橋は崩れていた。当然真下のジャンク街は全滅に等しい被害を被っている。道路も落ちた橋桁に封鎖された格好で、「向う側」へ出るにはえらい遠回りを余儀なくされる。とは言え高架周辺は残っているガードがなお崩壊する危険があったから、工事関係者以外は立入り禁止で、ジャンク屋たちは露店の形態で生き残りの部品をさばっていた。ただ、どれだけ使える物かは疑わしい。実はこの近辺は一般車両の立入りも制限されていたのだが、県警のIDが役に立った。

ヤーニャはしばし、東洋一の部品街の強かさに圧倒されたかのように、車の横で立ちつくした。 (続)

## 実際どうなんでしょ



### 次号発売日と申し込み要領

次号発売日は3月末日を予定。  
郵送料込みの料金¥600分の無記  
名小為替を下記までお送り下さ  
い。

### 投稿とPBM参加要領

PBMの参加メ切は3/19。三等  
雑居室他投稿のメ切は3/23、そ  
れぞれ必着です。投稿はMS-DOS  
テキストファイルでもOK。起動  
方法とディスクの返却希望の是  
非を書いた紙を同封してくださ  
い。メディアは3,5/5インチ2  
HDフロッピーディスクのみと  
させていただきます。

### VOICE OF STAFF

(田) わーい修羅場だ修羅場だ  
血イ吐きそう…。

(孝) 何なんだこの新作ラッ  
シュは！俺を殺す気かSNK！  
そういうことする悪い子ち  
ゃんは、月に（検閲により  
削除）よ！あ、劇場版は面  
白かったよ（何の？）

(菊) AIVが起動できないので  
CONFIG.SYSをムキになっ  
ていじくり回してたらコンベン  
ショナルメモリが増えた

## PBM+α PLAYING MAGAZINE BLOWERS Vol.22

★今回は大幅増ページの「真鶴学園風雲録」！本  
居の先輩さんの4コママンガが掲載されてから  
評価はウナギのぼりっ！そこのお兄さん！この  
PBMに参加するなら今が旬でっせ！

#今回より始まった、おバカな体験日記「墮落日  
誌」。田中は次回までにどんなおバカをするん  
でしようか？（ちなみにここに書いてあること  
は実話です）

■読者と編集者によるFREE TALK SPACE「三等雑  
居室」は改訂後も健在！もっと色々好き勝手な  
ことを言いたいあなた！スペースはありますぜ  
い。どんどん投稿してくだせー。

＆読者イベントは大成功！参加して下さった皆さ  
ん、ありがとうございました。次回のイベント  
は厚木航空祭を目下検討中。予定ですのでど  
なるかは現在の時点では分かりませんが、とり  
あえず予定はある、ということでヨロシク！

♠新連載連続ファンタジー小説「六色のダガー」  
はヘンなパーティが繰り広げるおかしな冒険活  
劇。次号からいよいよ本編突入！（スタッフの  
都合により、休載する場合があります）

♪P. P. MAYA健在！ワープロのキーはとど  
まるところを知らず好調！好調！さて次なる展  
開は？（表紙の女性、メガネ取ったらPOWER D-  
OLLSのハーディに似ていると思えるのは僕の気  
のせい？）

→その他苦情や疑問に思った点、質問、希望等何  
かありましたら田中宛までどうぞ。誌面でお答  
えできない場合は私信で折り返し質問に答えさ  
せていただきますので。（時間がちょっとかか  
るかも知れませんが）

# STAFF

EDITOR IN CHIEF

MASATO TANAKA

ASSISTANT EDITOR

AZUCHI

PBM-「MANAZURU GAKUEN FUUUNROKU」

GAME DISPOSAL KENICHIROU KIKUCHI

ART TAKAYUKI HAJIME

WRITTER TOUMA MISAJI

COMICS MOTOORI NO SENPAI

ESSAY-「DARAKU NITTSHI」

WRITTEN MASATO TANAKA

FREE TALK SPACE-「SANTOU ZATTKYOSHITU」

WRITTEN SOMEONE

CONPIER MASATO TANAKA

IVENT REPORT-「THE THIRD BATLE TECH」

REPORTER MASATO TANAKA

SPECIAL ASSIST MOTOORI NO SENPAI

ESSAY-「IKE IKE SOTOMAWARI」

WRITTEN KENICHIROU KIKUCHI

NOVEL-「FTTRPGRN ROKUSHIYOKUNO DAGGER」

ART RINA TADANO

WRITTER K.O.U

CONPIER MASATO TANAKA

GAME PLAY GROUP AICOS

NOVEL-「PEACE PRESSER MAYA」

WRITTER KOJIROU MOTOORI

ART MABOROSHI

COMICS MOTOORI NO SENPAI

COVER ART

RINA TADANO

AZUCHI

SPECIAL THANKS

EVERYBODY!



BLOWERS 第22号

第五卷 第2号(通卷23号) 平成6年2/28発行

代価 ¥300(送料別)

発行所/印刷所 「横浜空技廠」

本紙記事ヲ無断転記スルコトヲ禁ズ